

日総工産株式会社

【2021年3月期 第1四半期決算説明 主な質疑応答】

2020年8月20日発表

当内容は発表後にいただいた質問より、主な質疑応答を記載しております。また、ご理解いただきやすいように一部加筆、修正をしております。

Q1:自動車及び電子デバイスは第1四半期がボトムで、第2四半期から回復していくのですか。

A1:第1四半期では、自動車関連では、国内、国外での新型コロナウイルス感染拡大の影響による急激な需要の縮小を受け、減産もありましたが、徐々に生産状況は回復傾向となっており、当社の主要取引先であるアカウント企業では、8月以降の生産台数は当初の計画並みに回復する見込みであり、これに伴い当社への発注も増加傾向となっております。また、電子デバイスについては、引き続き、ITインフラ投資が堅調に推移するとともに基地局など5G関連の半導体需要の増加や自動車関連についても需要の増加が見込まれており、これに伴い、人材需要も回復へ向かっていくと見込んでおります。

Q2:今回発表された通期連結業績予想は、自動車が回復傾向にあるなか、かなり保守的ではないでしょうか。

A2:今回、発表した通期連結業績予想は、下期より徐々に経済活動が再開され、当社グループの事業環境も緩やかに回復するという仮定に基づき、算定を行いましたが、主要取引先である自動車関連では、業績予想算定時に立てた見込みより前倒しで需要が回復してきております。このように算定時からの状況が変化していることから、保守的な予想と言えますが、今後の新型コロナ感染拡大の影響や自動車関連以外の業種の回復状況など、まだ不透明なこともありますので、まずは、今回発表したこの連結業績予想の早期の達成を目指してまいります。

Q3:募集費を中心に販管費が減少しましたが、第2四半期以降は増加していくのですか。

A3:第1四半期は需要の減少に伴い、募集費も減少しましたが、第2四半期に入り徐々に顧客からのオーダーも増加してきており、これに伴い募集費も増加する見込みです。また、その他の費用全般は、引き続き抑制を進めていきますが、就業者の付加価値を高める教育や育成に関する投資や当社の成長に必要であると判断した投資は行ってまいりますので、第2四半期以降の販管費は、増加するものと見込んでおります。

Q4: クロスコンパス社との資本業務提携は、どんな狙い(効果)があるのですか。

A4: 当社では人材派遣、あるいは請負というサービスを提供しておりますが、これからの製造現場では新しい技術革新が進み、IoTやAI、ロボットなどが製造現場に導入されることで、生産性や品質が上がっていただろうと考えておりました。そのような中、お客様と話をする機会もあり、アフターコロナの製造現場においては課題解決という新しいビジネスモデルが必要だという認識にいたりました。そこで、主に製造業分野の課題解決に向けたAIの開発や技術コンサルティングを手掛けているクロスコンパス社との資本業務提携に向けた協議を開始いたしました。この提携により、当社が持つ製造現場での豊富な知見と人材に、このクロスコンパス社が持つAI技術と開発力を加え「人とAIによる現場ソリューション」という高付加価値サービスを創出し、お客様が抱える製造現場における課題解決やニーズに速やかに対応できる仕組みの構築を目指してまいります。この実現により、製造現場で省人化、自動化が進み、従来のオペレーター需要が減少していく場合でも、製造現場における課題解決といった新たなニーズに対応することにより、業績の拡大が可能であると考えております。

Q5: その他の事業は今期黒字化になるのですか。

A5: 6号館(すいとぴー東戸塚)の入居状況につきましては、Webによる内覧をはじめ、できる限りの対応を進めてきた結果、入居者数は増加し、7月末で入居者は82名まで増加しております。6号館の定数は94名であり、今期は引き続き入居者の増加を図り、安定した入居者数とすることで、今期内の黒字化を目指してまいります。

Q6: 設備保全中心に技能社員は今後も増加していくのですか。

A6: 多くの技能社員が就業している半導体製造装置などの設備保全については、顧客からの需要は引き続き高く、このニーズに応える形で技能社員は増加していく見込みです。また、この設備保全以外にも、生産技術のような新たな分野において、質の高いサービスを提供できる高度な技能を持つ技能社員も育成してまいります。

このように、今後については、現在の顧客からのニーズが高い設備保全者に加え、新たな顧客ニーズに対応できる技能社員の増加を図ることで、さまざまな顧客の要望に対応することが可能となり、業績拡大へつながると考えております。

以上